

最近の《ことば》に見る中国事情 (1)

丹藤佳紀 (ジャーナリスト)

はじめに 「PM2.5」の中文名称が「细颗粒物」と決まる

吉田先生からご紹介いただいた丹藤です。今日は主催者をお願いして日中友好協会の『日本と中国』紙のコピーをお手元に配っていただきました。そのフォーカスというコラムを執筆しました。大学で中国語を勉強し始めたこと、卒業してからちょうど今年で50周年になること、そういった内容です。お目通しくださいれば、今日の講師がどういう道をたどってここまで来たか—という事もお分かりいただけると思った次第です。私などが半世紀前に、中国語を志したという、そういう歴史的なという大げさになってしまいますが、そういう人間もいたのだという事を、ご理解頂ければ大変ありがたいと思います。では、本論に入ります。

ついこの前、PM2.5という大気中の浮遊物質が北京をはじめとして、中国の北方ですね、襲来して大きな問題になりました。そのPM2.5を中国語で何というか、正式に決まった事が分かりました。これは日本で一般の新聞や雑誌には出ていません。PM2.5というのは、これはParticulate Matterという英語の頭文字ですね。それは2.5という非常に細かい粒です。1 μ m (マイクロメートル) というのは、1mm (ミリメートル) の千分の1ですから、髪の毛よりも、1/10から1/5位、細くて細かい物質なのだそうです。

それを日本語では普通、微小粒子状物質と言う長ったらしい名前です。中国語では、この3月に、全国科学技术名词审定委员会という、国務院の下にある専門機関で決まりました。それは、そこにピンインを付けて書いておきましたが、「细颗粒物 (xīkēlìwù)」という名前になったという事です。名词审定委员会という国家機関は、中国語にない新しい、科学技术に関する名称が必要になった時に、それをなんと呼ぶかを決めるところです。

これまで決めたものでは、もう今では皆さんご存知通りのインターネット、「因特网」(yīntèwǎng) があります。インターネットが登場して中国に広がった時に、これを何と呼ぶか決まっていなかった。それで、中国語の場合、事態がややこしくなります。というのは、中国語圏には中国大陸だけではなくて、当時はまだ中華人民共和国に戻ってなかった香港やマカオ、それから台湾があります。さらに、アメリカの西海岸など、華僑・華人がコミュニティ・社会を作っているところがアジア以外にもあるからです。そこで、それぞれ

れ勝手な名前でそれを呼ぶと、もう、乱立して何が何だか分からなくなってしまう。インターネットも最初、そういう状態にありました。それを、中華人民共和国としては、このような名称でやるのだと決めたのがこの委員会です。

I 中華人民共和国の建国からこれまで3回、新語・流行語のピークがあった

レジュメの1番目に書いたのは、中華人民共和国が始まってからこれまでに、大きく分けて3回、新しい言葉、流行語のピークがあったこと。これは、そこに1番目として解放から建国の時期、2番目として文化大革命の時期、3番目は改革開放の時期というように、3つ上げました。ご覧のとおりいずれも、政治的経済的に非常に大きな変動があった時期です。

①解放・建国期（1949年～）封建的な身分からの解放、政治・経済的変革、対外関係

1番目の解放・建国の時期というのでは、やはりこれは、封建的な身分から解放されたという事が非常に大きい要素だったのですね。その中では、女性の地位を表した「半边天(bànbāntiān)」という言葉があります。毛沢東がいったそうですが、女性というのは天の半分を支えるのだ一という事から、このような言葉が生まれたのだといわれていますね。

それで、これは今にも通じる場所がある。女性の地位というのがしっかりと高められているとはいうのですが、まだまだの部分が多いと中国の人たちはいいます。例えばどのように現れるのか。今は大学・高専卒の女性が多くなっていますが、就職という事になりますと、役所は女性の採用枠が決まっているからまだいいのですが、民間企業からは、やはり敬遠されるのだそうです。

どうしてかというと、女性は結婚するとどうしても出産があります。それは、法的に保護されていますから、休みが多いのですね。そうすると企業側からすると、「う～ん」ということに中国でもなるのだそうです。ただ、政治への進出ぶりなどを見ますと、日本より中国の方が進んでいる事情があります。今度の中国共産党大会と全国人民代表大会で、党の最高指導幹部や政府閣僚が決まり、国務委員という副総理格のポストに女性の劉延東さんが入りました。この方は、去年の党大会の段階では、中国共産党の政治局の7人しかいない常務委員の1人になるのではないかといわれたのですけれども、そこには入れませんでした。

②文化大革命（文革）期（1966～1976年）政治大変動で政治・社会に関わる新語あふれる それから、2番目の時期の文化大革命の事ですが、ここでは、「革命无罪(gémìngwúzuì)」

という表現があります。これは、文化大革命の時は、紅衛兵達が「革命」という目的のためにやることなら、なにをやっても問われない、罪にならないという事をこのスローガンで表しています。その結果というのは、皆さんご存知のように、非常にむちゃくちゃで乱暴な事が沢山ありました。

これを何故わざわざ私が、思い出してここに入れたかと言いますと、この前中国の各地で起きたいわゆる反日デモの中で、「爱国无罪 (àiguówúzuì)」といスローガンが出ました。この「爱国无罪」という表現は、この文化大革命の時期に定着した革命無罪という表現の、コピーというか、二番煎じというか、そのようなスローガンなのです。文化大革命のころの、革命無罪と同様に、愛国無罪というスローガンさえ掲げておけば何をやってもいいのだ—といわんばかりの乱暴狼藉が、いわゆる反日の運動の中の一部にありました。

その後になって、例えば日本車をやたらめったらに傷つけたり壊したりしたり、そういう暴行が法律違反として改めて問われました。そのような「爱国无罪」をスローガンにした、個々の暴行は、あちこちで法律違反という事で追及を受けました。そのもとになったのは、この文化大革命の時のこのスローガンだという事で、そこに書き込んだ訳です。

もう一つは、黒板に書きます。「血统论」(xuètǒnglùn) ですね。血統論というのは、紅衛兵が組織として動き出した1番最初の時期に登場した考え方です。これはどのようなものかという、当時“老子英雄儿好汉”(おやじが英雄ならば、子供はいいヤツだ)、これは普通男性に言うのですが、まあ子供と平たく言っていいでしょう。その子は、いい人間だ。という事ですね。だからこれは「蛙の子は蛙」という血統論をいった中身ですね。そのことは、例えば今現在の政治の世界でいうと、父親が偉い存在であった人の子供たちの事を「太子党」といいますね。総書記の習近平さんなんかもそうですが、この太子党という考え方にも、つながる部分があると考えていいだろうと思います。

③改革・開放期 (1979年～1995年)

◇初期＝経済改革・対外開放◇90年代＝経済成長と社会的変化◇後期＝IT情報通信技術の革命

それから、3つ目の改革開放の時期になりますと、ここからは新語が大量に現れます。それで、特にその時代から、経済改革とか政治の問題だけではなくて、通信技術の大きな進歩を表す言葉ですね。先ほど申し上げたインターネットなんかもそうです。

改革開放期の1行目の真ん中に挙げておきました、「盲流 (mángliú)」です。日本の今の新聞やテレビや雑誌では、盲(めくら)は差別語だとして使わないことになっています。ですから、盲人とはいいませんね。今では、目の不自由な人という風がいい換えをするこ

とになっていますが、中国語では特に、これを使うなということにはなっていません。

ただ、盲流という表現は、最初登場した時はいささか差別の意識があったのですね。はっきりした目的が決まっていけないのに、“農村から都会に出てきて”という蔑(さげす)んだ響きがありました。ところが中国の経済成長が軌道に乗ると、この農村から都会に出てくる人たちの労働力が大変貴重なものになってきます。これはもう、経済学者が専門の本を書いていますけれども、あの豊富でしかも低廉な労働力が中国の高度成長を支えたのだと論証していますね。

事実その、最初は盲流なんていう、いささか軽蔑的な響きを伴って使われた農民出身の労働者、出稼ぎ労働者が今では「農民工」という名前に変わっていますね。それと同時に、後で改めて取り上げますけれども、都市と農村の二重の戸籍制度があります。これは問題だという事で、これを改めようという考え方が次第に強くなっています。(続く)

図書室 だより

湘南 鶴沼海岸に眠る 中国国歌作曲者 一聶耳一



1935年7月17日、中国国歌の作曲者、聶耳(nieer)は湘南の鶴沼海岸で遊泳中に溺死した。享年23歳。若すぎる死であった。

当時聶耳は国民党の特務機関の追手を逃れるため、ヨーロッパ(一説ではソ連といわれている)へ留学に行く途中、日本に滞在していた。神田神保町に寄宿しながら日本語学校に通い、見聞をひろめていた3ヵ月後の事故であった。

中国の国歌は、もともとは映画『風雲児女』の主題曲『義勇軍行進曲』として1935年に田漢が作詞、彼が作曲したものであったが、1949年中華人民共和国の成立に伴い、その歌詞と進軍ラッパ鳴り響く勇みよいメロディが国歌に採擷された。聶耳の死後14年目のことであった。

鶴沼海岸の藤沢市ではその死を悼み、1954年、有志により記念碑を建立。聶耳が生まれた雲南省昆明と姉妹都市になった。そして毎年、命日の7月17日には鶴沼海岸聶耳記念広場に於いて碑前祭を催している。今年も朝9時30分から、『義勇軍行進曲』の吹奏や黙禱がおこなわれる。

＊写真は『聶耳全集』下巻(文化芸術出版社・人民音楽出版社発行)の巻頭よりスキャン

— 聶耳の資料ご紹介 —

DVD『聶耳』 監督:鄭君里/主演:趙丹、張瑞芳/1959年/字幕なし

『聶耳 閃光の生涯』 齊藤孝治著/聶耳刊行会/1999年

『聶耳全集』上下巻 《聶耳全集》編輯委員会編/文化芸術出版社・人民音楽出版社/1985年

— 新着図書ご案内 —

『変』 莫言著/長堀祐造訳/明石書店

『莫言散文』 莫言著/浙江文芸

『四訂版 中国駐在員の選任・赴任から帰任まで完全ガイド』 藤井恵著/清文社

『日・英・中・台・韓 5カ国語会計・会計学用語辞典』 徳賀芳弘編/税務経理協会

『HSK 常用虚詞例釈』 陳田順/庄来榮編著/語言大学

『看見』 柴静著/広西師大

— 寄贈 —

下記の方々より寄贈がありました。有難うございました。

●浅利圭介様より

DVD『新少林寺』 監督:陳木勝/主演:成龍・劉徳華・謝霆鋒・範冰冰/中文字幕

●黄綿史様より

DVD『火龍』 監督:リー・ハンシャン/主演:レオン・カーフェイ、ハン・フォン/日本語字幕

DVD『越劇 紅樓夢』 監督:黄祖模/主演:王君安ほか

日中学院報

461

2013.8

編集発行人・小池敏明

毎月1回、1日発行

定価1部100円/1年1000円(送共)

郵便振替 東京00100-0-38184

〒112-0004東京都文京区後楽1-5-3

TEL. 03-3814-3591

FAX. 03-3814-3590

Website···<http://www.rizhong.org/>

E-mail···info@rizhong.org



7月19日
校外学習
本科・日本語科合同
ドイツ・日本語科合同
ライプツィヒ

A先生の新語コーナー



linghé “零和”

ゼロサム。一方が得をすれば必ず他方が損をする状態を指す。中国の習近平国家主席は3月23日にロシアのモスクワ国立国際関係大学で講演した際、「体はすでに21世紀に入つたのに、頭がまだ過去にあるようではいけない」とし、ゼロサムゲームの古い慣行から抜け出すべきだと主張、「各国はウィンウィン(原語は「共赢」で共に利益を得ること)の協力を中心とする新しいタイプの国際関係を確立しなければならぬ」と指摘した。

(A)

最近の《ことば》に見る中国事情 (2)

丹藤佳紀 (ジャーナリスト)

(前号より続き)

Ⅱ 第4ピーク (1995年=インターネット元年) 過去3度のピークに登場した新語・流行語とは異なる傾向も出現している

これまでの、3つの時期に新語がたくさん登場して、ピークがあったという風にお話ししました。その後では、私は今の時期も第4番目のピークに数えていいのではないかと考えています。そこでは、中身として政治経済、社会にわたる言葉ももちろん沢山あるのですが、何としてもやはり、インターネットに象徴される通信技術と言うか、通信システムと言うか、そういうものが非常に大きな要素になっていると思います。

① コンピュータ、IT革命に関連する新語が数多く登場 (審定委で決まるまで「两岸三地」で用語ばらばらだった)

インターネットを「因特网」という新語の作り方はこうなっています。「因特」と言うのは、これは英語のinterの音をとったのですね。この因果関係の「因」と特別の「特」には意味はありません。interという音を作るために借りただけです。意味を借りたのはこのnetですね。「網(あみ)」です。「网(wǎng)」と言うのを付けたわけです。だから音訳と意識がプラスされた新語です。この「网(あみ)」がnetの意味で、今、色々な単語の作られる元になっています。net〇〇という言葉が、全部、网(あみ)を使う訳ですね。インターネットを通じて買い物をする、インターネットを通じて登録する、そういう場合にみんな「网(あみ)」を使う。この网(あみ)に人々を表す民を付けますと、インターネットをする人たち、英語でnetizenと言うのですが、network citizenの省略ですね。ネットをする市民と言う意味ですが、netizenというのが、「网民」という新しい単語

で表されます。またネットカフェはカフェを表す吧ですね。お酒を飲む吧と同じ単語ですが、「网吧」と言うのがネットカフェを表します。

② あるキーワードを基に新語が造語される

そのことは、2番目の所に、あるキーワードを基に新語が造語されることと言う風にまとめておきました。最初に出てくるのはミニブログですね。「微博 (wēibó)」と言うのが、大変有名ですがけれども、これも、今やこの「微博」抜きにしては、中国の社会とか政治まで含めて語れない位に、ものすごい活躍が目立っているそういうメディア、新しいメディアになっています。それが、他にいろんな組み合わせで、お役所が発表をした文章をこの「微博」を通して流す、「微博公文 (wēibó gōngwén)」とっています。お役所が、1人1人のスマートフォンでの携帯電話に通達を流し込んでいくわけですね。

それから、そういうキーワードになるものとしてもう1つ挙げますと、裸という単語がありまして、これは裸一貫の裸です。最初にこれが有名になったのは、中国の幹部公務員の汚職ですね。あの汚職をやっている幹部公務員が家族を先ず、外国に出しておく。財産も持たして逃がしておく。それで、自分だけ残って勤めを続けている。これを裸のお役人「裸官 (luǒguān)」と言ったのです。これは、チャンスが来たら家族の所に脱出して飛んで行こうと、そういう準備段階だと言うことで、裸の官僚「裸官」というのが悪名高くなったのです。

そこから色々転じました。昔、日本では、若い男女がともかく一緒になりましょうということで結婚することを「手鍋さげても一緒に」という言い方がありました。現代中国では、そうした内容・形で結婚することを「裸婚 (luǒhūn)」と言いますね。それから、学生が、いざ試験だと言うのに一夜漬けも何もしなくて、もう素手でぶち当たってしまえと言うのが、裸で試験を受けると言う「裸考 (luǒkǎo)」。それも学生の間では、「お前あれどうした」「俺あれやっちゃったよ」と言う言い方で学生の流行語として流行ったと言う風にいわれています。

もう1つ、これは主に若い人の中で流行った言葉ですが、被害を受けると言う場合の「被」ですね。被 (こうむ) ると読まれ、中国語では受け身を作る時に使う単語です。自分の知らない間にそうされたしまった、という事をいろんな中身でこれを使って表したという事で、いくつか例を挙げておきました。代表的なのが自分の知らない間に「～代表」にされてしまったと言う言い方ですね。「被代表 (bèidàibiǎo)」と言う言い方。それから学生なんかですと、卒業間近にしていろいろ就活をしても中々うまくいかないと悩んでい

る。それなのに、「お前何か内定したそうじゃないか」と友達に言われる。そこで調べてみたら学校の発表では内定したことになっている。そういうのを「被就業(bèijiùyè)」と言う。「就業(jiùyè)」と言うのは、就業する、仕事につくと言う意味ですが、就業したことにされてしまった～と言う風な中身で、学校側が内定率を高く“お手盛り”した内容です。

次の二枚目のレジュメにあります「群体性事件(qúntǐxìng shìjiàn)」は、これは社会的な出来事で良く使われる言い方ですね。都市あるいは農村で何か、不満な事があって、大衆がまとまって抗議活動を起こすと言う場合に使われる言い方です。それから、お年寄りたちや身体障害者そういう人たちの集まりの事を2番目の例に挙げておきました勢いの弱いグループ「弱勢群体(ruòshì qúntǐ)」と言い方、そんな風にして「群体(qúntǐ)」という単語が広く使われています。

③ある意味の成語が登場し、その類語・反対語が造語される

さてその次ですが、文化大革命の時に、「血統論」があったと紹介したことにつながる言い方ですね。ら有名なのを再度挙げますと、お金持ちの2代目と言う意味の「富2代(fùèrdài)」、それからその反対の「窮2代(qióngèrdài)」。ですね。苦勞して親に大学を出してもらったけれども、なかなかいい仕事に就けない、それでもって大学の同窓生や友達なんかと一緒に都会で一間を借りて、集団生活をして頑張っていると言う風な若者が非常に増えました。その人たちを、集団生活をしているものですから、蟻に例えて「蚁族(yǐzú)」と呼び方が、登場しました。湖北省の武漢での統計がありまして、そこでの統計によりますと、「蚁族」の若者の8割がその貧しい家の出身だという事が、統計で出たのだそうです。

④外来語（ローマ字語・翻訳語）の取り入れ

それから、あともう一つのグループは、これは外来語をローマ字だけで表す表現が、数はそれほど多くはありませんが増えています。代表的なものが、新聞などにそのまま出てきますが、CPI (Consumer Price Index 消費者物価指数) ですね。それからDVD (Digital Video Disc) これはご存じの通りです。あとは合成語ですが、ちょっと古くなりましたけれども「卡拉(kǎlā) OK」がそうですね。これは、先程インターネットを説明した時に申しあげましたように、「卡拉」というのは音を借りるために使った漢字で意味はありません。それで、カラオケの「卡拉」を出して、オケがローマ字の「OK」をそのまま使った造語です。大きく分けてこのように新語が出来ているのだと、紹介しました。(続く)

最近の《ことば》に見る中国事情 (3)

丹藤佳紀 (ジャーナリスト)

(前号より続き)

Ⅲ 市場経済・高齢化社会の反映

さて、3番目ですが現在とこれからの話です。市場経済それに高齢化社会というものが言葉にも反映されていくだろうと考え、そのような見出しを立てました。その中で、先程お話ししたインターネットあるいはミニブログ「微博 (wēibó)」ですね。その関連でいうと、政治との関わりで知っておいて頂きたいのはこのような事でしょうか。

レジュメには書き落としたので、黒板に書きます。「五毛党 (Wǔmǎodǎng)」です。ミニブログで表明・伝達されるニュース・意見・批判が大変大きな力を持っています。そのことに中国共産党も政府も気が付いて、野放しにしておいてはまずいという意識が働いたのでしょうね。その一つの方法として、中国共産党、政府の言い分にも良いところがあるのだ、という“応援団”をお手製で作ったのです。その人たちの事を、「五毛党」と呼んでいます。これは、別に中国の政府がそのように呼んでいるわけではなく、逆ですね。一般の市民、そのミニブログを使って、どちらかと言うと中国共産党や政府に批判的な事を言う側からちょっと皮肉っぽくこのようなあだ名を付けました。

このネーミングにも皮肉が込められています。この人たちは政府などに頼まれた、オピニオンリーダーという風に言われますが、1本原稿をそのミニブログに書く。たとえば「いやいや、当局も結構いいこと言っている」と書き込むと、1元の半分、五毛を手当として貰えるというのです。中国の通貨の単位としては「角」ですね、1元の十分の一。だけど、あの単位は「毛」とも言われ、北京などでは「máo」として使われる。ですから、「五毛党」というのは別に政党ではなくて、そういう“やらせ”グループを表している、政治とそのメディアの両方に関わりのある言葉です。

それで、やはりこれからの大きな、分野、課題は経済成長をどうするのかという事だろうと思います。中国共産党と政府が取ろうとしているのは、これまでのように輸出を増やしてGDPを増やす方法は、それだけには頼ってられないという事で、国内での需要、内需ですね。それを大いに高めて、そしてGDPを増やすように切り替えていこうと考えているようです。

その1つの方法が、レジュメの第3番目の市場経済・高齢化社会の反映の二つ目に書き

ましたが、内需拡大のキーワードですね。「城镇化 (chéngzhēnhuà)」、都市化と言われていますが、これです。かつて「盲流 (mángliú)」といささか小ばかにした言い方で表された出稼ぎ農民が、後になって、「農民工」と言い換えられたとお話ししました。今では「農民工」と言われる存在は、都市に定住している人たちが圧倒的に増えています。

そこでの問題は何かと言いますと、都市に定住はしているのだけれども、法律の規定によって、都市の戸籍は取れない。都市の戸籍が取れないという事はどのような事かと言いますと、都市に住んでいてもその子供たちは、都市の学校に入れない。義務教育を受けられない。それを始めとして、例えば、健康保険の問題だとか、社会福祉の面で色々な差別を受けている存在な訳です。ですから、そういう権利がきちんと保障されていない状態を「第2国民」と表現しています。権利がちゃんと保障されている市民を第1国民で、そうでない「農民工」なんかを「第2国民」だと蔑んでいる新語さえ現れているくらいです。ですから、これは政治の課題ですけれども、これを何とかしないとイケないだろう。都市化を進めるについても、そのような差別を解消する方向で都市化を考えていかなければならないと、今言われている訳です。

現実に、単語として、すでに出来ている単語があるのですが、それは「城客 (chéngkè)」という言い方ですね。「城」はこの場合、中国語で都市を表します。「客」は主人ではないお客、つまり身を寄せている人という意味ですね。だから今お話ししたような農村から出てきて、都会には住んでいるけれども、都市の主人にはなっていない、要するにお客さん扱いされている存在という意味で「城客」です。主にこれは、農村から出てきた若い人たちをいうようですね。一応勤めも都市にあるのだけれども、根っこはまだ都市に生えていないという意味ですね。つまり、自分の住む場所もない、そういう存在が「城客」と表されているのですね。

これについて、ちょっと政治にかかわるお話をしますと、政治と経済のかかわり、非常に高度な政策転換が求められるという事柄が、一つあります。それは何かと言いますと、「国进民退 (guójìn mǐntuì)」という言い方です。これはいくつか意味がありまして、大きな中国の経済情勢、マクロの経済でいいますと、国有企業が頑張っているけれども、民間企業が圧されているという意味になります。ここでいう国有企業とはどのような企業かと言いますと、石油・天然ガス・通信・銀行・生命保険などこのような業種では国有企業、独占的な大企業が大いに儲けているけれども、そこには民間企業を参入させないのですね。自分達で独占していて。ですから、国有企業は儲けて頑張っているけれども、民間企業はあまりふるわないという事を「国进民退」と表す場合があります。

それからもう1つは、それと絡むのですが、中国の豊かさを国が取る分と国民が取る分と分けた場合、その比率が、今中国の場合は国が取る分が多くなっている。それをもう少し国民が取る分を多くしていかないと、消費に回ったりしないというのです。そのような意味で分け前を、「国進民退」ではなくて、その逆にしないといけないだろうと言われてます。ですからこの「国進民退」といういい方ですね。これを、所得の分配面でも改めに行くようにとすべきであるという意見が、政治改革とも絡む内容のものですが、表明されている事です。

それから、もう1つは社会保障、社会福祉の問題ですね。ずっと中国が続けてきたいわゆる一人っ子政策ですね。それをこのまま維持していっていいのかどうか、もう改めるべきではないかという、そういう見直しの意見が出てきているという事があります。一人っ子政策の結果を表す、新語があります。「421綜合症(sì'èryāo zōnghézhèng)」です。一人っ子が孫にあたって両親が2人ですね。その両親の両親がいますから4人になりますね。そうすると、1人の孫が父母とおじいちゃん、おばあちゃん4人をサポートすることになるという事が「421綜合症」という1語で表されます。

現実になるが起きているかといいますと、その下に書きましたように、「未富先老(wèifùxiānlǎo)」ですね。まだ中国社会が鄧小平の言ったように、皆が豊かになる共同富裕の段階にはなっていないのに、先に高齢化が進んで老人化してしまうという状態になっています。そこでは、その宝物のような存在だった一人っ子が親よりも先に亡くなってしまふ。これには様々なケースがありますが、そういう人も当然ですがかなりの数に上ります。そのような人たちを、そこに書いておきましたが、「失独者(shīdúzhě)」、「独生子女(dúshēngzǐnǚ)」を失った人、親という意味ですね。一人っ子を亡くした親というのをそういう風に言うのだそうですが、そういう存在も増えています。そうすると、その扶養をどうするかというのが、大きな問題になっているという事ですね。広東省は非常に早くこの検討を始めているところで、すでにテストプランとして、親のどちらかが一人っ子の場合、2人目の子供を産んでもよいという、そのいう緩和策をとろうとしているようです。その親のどちらかが一人っ子の場合、2人目の子供を産んでもよいという中身を表したのが、その「一独二胎(yīdú'èrtāi)」ですね。「1人が一人っ子(独)で2番目の赤ちゃん」という意味になりますが、片親が一人っ子(独)ならば、2人目の赤ちゃんを持ってもよいということですね。これまでは、一人っ子政策を進める方法として、両親とも一人っ子ならば二人目を生んでも良いという事だったのですが、それを大幅に緩和しようと広東省が今テストを始めている。それが「一独二胎」と言うスローガンで表される中身になります。

これからの中国社会を考える上では、やはり、若者が何を考えてどのような行動をするのだろうかと色々考えるべきであろうと思います。ご存じのとおり中国の若者にも、村上春樹は大変人気があって、小説に出てくる人たちへの憧れみたいなものが非常に強いと言われています。その一つの表れが、『ノルウェイの森』に出てきたような、存在ですね。それを「小資 (xiǎozī)」(プチブルジョワ) と言うのです。この「小資」という中国語は私なんかは学生のころから文化大革命のころまで、軽蔑の対象だったのです。プチブルジョワというのは、良い存在ではなかったのです。ところが今やプチブルジョワというのが何か、憧れの対象になっているように、中国の若者には考えられているというので、うーんと思ったのです。若い勤め人で月末にはをもうお金をすべて使ってしまって懐がスカッラカンになる、そこで、親のすねをかじるという存在を表す言葉が出ています。それを「月光族 (yuèguāngzú)」というのだそうです。月光族でも別にベートベンのピアノ曲の名前ではありませんよ。これは、「月」は月末で「光」はスカッラカンになるという意味ですね。旧日本軍が日中戦争でゲリラ対策としてやった「三光作戦」と言うのがありますね。三つの光(スカッラカンにする)という、焼き尽くし、殺し尽くし、奪い尽くすと言うあれです。ですから、月光族と言うのはそんなに優雅なものではなくて、大変みじめな存在なのですが、そういう言葉まで出来ているのです。さらにそこでは中国も今はクレジット社会ですからカード会社が盛んに、お金を使うようにけしかけるスローガンがそこにあります。なるほどまい事いうなと思って感心したのですが、そのCMがこれです。「用今天的钱 (yòngjīntiāndeqián / 今日のお金を使って), 圆明天的梦 (yuánmíngtiāndemèng / 明日の夢を見よう)」という大変、カード会社にとっては若者がみなこの通りにやってくれたら、商売繁盛で良いかなと思うコマーシャルになっています。(続く)

〔付記〕

本稿を校正していた7月1日、年老いた両親と離れて暮らす子どもが春節などに定期的に帰省して親元を訪ねるよう義務づけた「高齢者權益保障法」改正が中国で施行された。高齢化の進む一方で若者が帰省したがない現象が広がっており、この法律制定になったようだ。

日中学院報

463

2013.10

編集発行人・小池敏明

毎月1回、1日発行
定価1部100円/1年1000円(送共)
郵便振替 東京00100-0-38184
〒112-0004東京都文京区後楽1-5-3
TEL. 03-3814-3591
FAX. 03-3814-3590

Website...<http://www.rizhong.org/>
E-mail...info@rizhong.org



2013年9月6日
本科・日本語科合同授業
小石川後楽園入り口にて

A先生の新語コーナー



tiēpái shēngchǎn “貼牌生产”

相手先ブランド生産(OEM)。統計によれば、中国の輸出商品の約90%はOEM製品である。現在、中国の製造業の規模は世界一であり、OEM方式は大量の就業問題を解決し、外貨準備高を増やすのに大きく貢献した。しかし、国内の人件費の上昇に伴い、その優位性は徐々に失われつつある。このため、中国はイノベーションを進め、自主ブランドの育成に力をいれ、「OEM大国」から「ブランド大国」への転換を図ろうとしている。(A)

最近の《ことば》に見る中国事情 (4)

丹藤佳紀 (ジャーナリスト)

(前号より続き)

それでは、これからの中国という事を考えた場合に、日本との関係も考えておくべきだろうと思います。一口で言うと、日本との関係は愛憎半ばする状態が続いている。非常に客観的にと言いますか、冷たく突き放した言い方をすれば、そういう事だろうと思います。よく「反日」デモの事が言われますが、あれは裏返してみますと、日本がやはり大きな存在であるからこそ、あのようなデモを行うのであって、日本が取るに足らない存在であれば、何もあんなに大騒ぎして「反日」デモなんかやらないだろうと私は思います。たとえば東南アジアの国々とも領土紛争はあります。しかし、その個々の国を対象にした大規模なデモなど起きていません。

中国側では領土・主権に関わる大問題と見なしました。それが基本です。もちろんデモが起こるには複雑な理由があり、最近の尖閣諸島(釣魚島)の問題でいうと、今回の一連の事態の発端が、「東京都が買収する」と言うところから始まったことは今更言うまでもないことです。

野田政権は、中国との関係を考えれば、国が前面に出た方がいいと言う判断で「国有化」に踏み切ったと言われます。ところが、中国の国民の多くは、「中国領土の釣魚島」というのが「尖閣諸島」の名でずっと日本の実効支配の下にあるということを知ら(され)ないできていた。そこへ「日本国有化」というニュースですから「日本が中国領土を奪った」と怒った訳です。

先程言いましたが、今までに乱暴なデモがありました。デモと言うよりは、明らかに打ち壊しや騒動ですね。特に青島の車の販売店が襲われたのは、これは「反日」デモと言われるものではないでしょう。狙い撃ちにして商売敵をやっつけたという理解の仕方の方が、よほど事実をきちんとおさえていると言えるかと思います。また、西安では日本車に乗った中国市民が殴られて重傷を負う暴行事件もあった。この事件では、河南省から出稼ぎに行っていた若い農民工が逮捕されました。

いわゆる「反日」の動きの原因・理由は、もちろん、尖閣諸島の問題が基本で、その影響も非常に大きいのですが、それだけではない。また、どの背景の事情や問題にはそれぞれの地域によってもまた違いがあり、人によっても違いがある。そうした非常に複雑な動きがともかく、尖閣諸島の国有化けしからんという事で、すべてがひっくるめられた形で「反日」に包み込まれたという見方を私はしています。

例えば、小さな規模の、あまり人目を惹かなかったかと思いますが、こんなデモもありました。香港と広州の間にある特区の深圳ですね。あそこではデモ隊が中国共産党の深圳市委員会の建物を襲撃しようとしたと言う出来事がありました。そのデモ隊のリーダー格がつかまって裁判にかけられましたが、あれは反日ではないのです。深圳に進出している外資企業には、それこそ「農2代」(二代目農民工)が多数雇用されています。そうした若い労働者の現状に対する不満があつた動きになったと見られているのです。反日の騒ぎに乗じた中国共産党批判、攻撃です。それは当局も放つてはおけないから、責任者を逮捕したという事です。そのデモはあまり目立たない動きで、中国国内で少ししか報道されませんでした。けれども、そういう事もあったのだと、これは私達がきちっと見ておかなければならないと思います。

尖閣の問題は尖閣の問題で、これは中国でも日本でも何やらとてもキナ臭い一時期がありました。お互いに何だか、やるぞやるぞ式の言い方、何かお互いが利用し合つてきつことを言っているような時期がしばらく続きました。見出し風に言えば「日中戦わば」と言うような、好戦的な事あれかし調です。ただ、日中双方とも、自分が言ったことに責任を持たな



酸 甜 苦 辣 五 七 五

蓝天
漂白云

绿油油的高尾山
空气真清爽

处暑的时节

带孩子们回娘家
怀念的故乡

展览冻毛象

古代故事活生生
孙子眼炯炯

初见海蜃冰

孙子跑来又跑去
人海水族馆

中国朋友来

旺盛的购买热情
感到很惊愕

炎热的夏天

秋天神奇地到来
晨风吹着脸

心灵的谷仓

麻雀在外面歌唱
偷不走沧桑

い人たちが勝手な事を言っているだけで、あまり信用しない方がよいと私は思っていました。

さすがに中国側でも、元国家主席の劉少奇の息子が人民解放軍総後勤部政治委員としてリーダー役で前面に出てきました。いわゆる「太子党」で、習近平の友達だそうですが、その人なんかきちっと、言っていますね。戦争だのなんだのと簡単に言うべきではないという事をピシッと言っています。やっと落ち着いた大人の意見が出てきたと言う感じです。

あとは両国政府、双方の政治家が、もう一段頑張っていますね、南の海で双方の公船がパトロールの途中でぶつかって、どうのこうのという、そのような偶然の出来事に陥らないような手立てを講じるべきだろうと思います。文字通り「一触即発」の状況が続いていますから。

中国の一般の国民で言えば、日本のやり方について、尖閣の問題を別にすれば、目くじらをたてて、けしからんと言っている人は、そんなにはいないはずですが。デモに沢山出てきたと言う若者たちを試みますと、これは、政治の問題、外交の問題はそれとして、他の事で言いますと、例えば、アニメーションだとかポップス等では日本の物が好きだという若者が、たくさんいて、それが中国の新しい世代の新しい動きとして、これはやはり大事にしていけないといけな事ですから、そのような点も併せて考えていくべきだろうと思います。

あるエピソード

それでは、締めくくりには私の個人的な思い入れを込めたエピソードみたいなことを申し上げます。毛沢東の最晩年ですが、まだ、アメリカと中国の間に国交がなかった1970年の話で



酸甜苦辣五七五(20)

节气已立秋

秋色不能看清楚
只闻秋风声

深夜下雨了

白色红色的菊花
绿叶多鲜艳

羡慕古代人

边听虫鸣边喝酒
秋天的长夜

东京奥运会

盼跟孙子去参观
决心保长寿

压力很大时

只要静心听音乐
就能去烦恼

日常生活

会发生意外变动
不一定不好

牵牛花盛开

叶子渐渐枯黄了
夏天将过去

す。アメリカの作家のエドガー・スノーが中国を訪問して毛沢東に会いました。それで、毛沢東は国慶節の時に、天安門の楼上にエドガー・スノーと一緒に上がったのですね。それで、『人民日報』一面にその並んだ写真が載ったのですが、あれは後から考えると、これからアメリカとの関係を開きますよという前触れだったのですね。そこまでみな読めなかったのです。それから、キシンジャーの秘密訪中の活躍が始まり、ニクソン米大統領が国交のない中国を訪れるという話になるのです。

それはさておいて、毛沢東と会見したエドガー・スノーは、昔の延安でインタビューした話の続きと考えたのでしょうか。「あなたの一生は何だったと思っていますか」と、ずばり聞いたのですね。そうしたら、毛沢東は「和尚打傘(héshàngdǎsǎn／和尚が傘をさす)」と答えた。これは、「歇后语(xiēhòuyǔ)」という中国流のなぞなぞなんです。その心はなんだという事なのですね。

それを通訳したのは外交部の唐聞生と言う女性です。この人は父親の仕事の関係でアメリカのニューヨーク育ちの人です。私と年はあまり変わらない感じですね。非常にきれいな英語を話す人ですが、残念ながらアメリカ育ちですから、中国のなぞなぞがわからなかったのですね。「その心は？」という事がわからなかったのです。

だから、毛沢東が言ったことを「和尚が傘をさす」とそのまま通訳したのです。私はその頃、読売新聞の外報部でそういう翻訳などをして記事を書いていたから、それを訳した覚えがあるのですよ。唐聞生通訳を基に「修道僧が傘をもって荒野をとほと歩いて行く」、そういう翻訳をしたのです。

ところが毛沢東が言いたかったのは、そんな事ではなかった。和尚が傘をさせばどうなるか。和尚ですから頭はつるつるスキンヘッドですね。髪がない。髪の毛と法律の「法」は同じですね。発音はwúfǎです。だから、法律がないのです。「无法(wúfǎ)」。そして和尚が傘をさしている、そうすると、傘で遮られて天が見えないですね。だから、天がないのです。「无天(wútiān)」です。「无法无天(wúfǎwútiān)」と言う、四文字の成語が「心」なのです。法律なんて何だ。天などというのものない。“私は好き勝手にやってきただけだ”と言うのが毛沢東の心だったのですね。一生涯自分の好きなようにやってきた、と言うのがエドガー・スノーに対する毛沢東の答えだったのです。

中国語の世界と言うのは奥の深いものだなと、その時にしみじみと思ったものですから、今日、皆さんに、昔の一つの体験としてご紹介しようと思った次第です。それに関連して、もう一つだけ余計な事を言いますと、中国人女性の経済研究者で日本総研の理事をされている、呉軍華と言う人がいます。この方が、この毛沢東流の「无法无天」をもじって今の中国社会を嘆いた言葉があるのです。「有法无天(yǒufǎwútiān)」です。今の中国社会は、「无法」ではなくて「有法」、法律はあるけれども「无天」だ。ちゃんと守る人がいないという事を「有法无天」と皮肉ったのですね。これも併せてご紹介しておきます。(了)